



猪尾隨筆

45
1286



門 45
號 1286
卷

△琉球人來聘記

寶永七年宣十一月十六日午后刻

將軍家大廣間口 出清淨直去清上段 清着座

清乃掛出之清簾
清座為中掛之

琉球人出座於下段清代替清禮義重王子

清座為二色堂
錦覆掛之清褥

清月見清臺者番和半共庫頭披露之畢而退宣而中山王繼目
清禮副使出座 清月見清臺者番和半宮內其補披露之畢而
其後西使自分清禮一人充出座 清月見畢而退出右末之刻
相濟 壹万石以上布衣以上裝束二而登城

清代替 中山王繼目清禮西使來聘人教

清代替之使者

正使

義重王子

旧曾
700 704

副使
附役
右筆
與力
同
同
役人
小性
同童子
醫師

正使
副使
附役
右筆
與力
同
同
役人
小性

中室

總目使者

宗愛田親重上

豐見城王子

與座親方

新城親重上

文保親重上

知念里之子親重上

赤尾武流之親重上

久場筑之親重上

伊佐筑之親重上

保榮茂里之子親重上

富盛親方
志保系親重上
屋直親重上
嘉平系親重上
玉城親重上
滑川親重上
仲嶺筑之親重上
柳系里之子
内圃里之子
前川里之子親重上
文里安忠

同音子
樂在教方
子力

老系子
路次系子
別高
二千り申吹
樂童子

日 日

日 十世々効

樂人

糸海里之子
伴系筑中親重上
内宿里之子

江田親重上
依之下波重上
玉衣心親重上
照尾里之子親重上
伴依考里之子
根河流里之子
津霸里之子

日 日

以上拾五人

内同里之子
十油里之子
砂圃里之子

右之通壹城竹外末之者外下馬腰掛ニ殘置

一路次樂
一輝持
一冷傘持
一中間

拾六人
四人
四人
四人

以上惣人數百七拾五人

清代禮儀儀獻上

- 一 清太刀 一腰
- 一 清馬 狗毛 一疋
- 一 青貝中央卓 二脚
- 一 同硯屏 一脚
- 一 同籠飯 一對
- 一 羅紋 內十百五 步拾用
- 一 縮袖 五拾用
- 一 鴻芭蕉布 五拾用
- 一 旺芭蕉布 五拾用
- 一 為芭蕉布 五拾用

中山王純日所禮獻上

- 一 太平布 百疋
- 一 久目綿 百把
- 一 壽帚香 二千第
- 一 香餅 二第
- 一 竹心香 百把
- 一 泡盛酒 拾壺
- 一 清太刀 一腰
- 一 清馬代銀 五拾枚
- 一 沉金中央卓 二脚
- 一 同九中央卓 二脚

- 一 同箱飯 一封
- 一 鴻芭蕉布 五斗
- 一 練芭蕉布 日
- 一 蓆芭蕉布 日
- 一 太平布 百疋
- 一 之月綿 百疋
- 一 泡參酒 五壺

清代皇帝中山王ヨリ使者兼皇王子自分

献上

- 一 壽帶香 拾箱
- 一 良香 日

- 一 太平布 北拾疋
- 一 鴻芭蕉布 二千疋
- 一 泡參酒 二壺

中山王總月分而使者兼皇王子自分献上

- 一 友香 拾把
- 一 香條 五箱
- 一 練芭蕉布 十疋
- 一 鴻芭蕉布 日
- 一 泡參酒 五壺

以上

清皇極中山王ヨリ清代皇帝

- 一 壽帶香 卅箱
- 一 香燭 二箱
- 一 龍世香 五十袋
- 一 石人形 二所
- 一 玉凡鈴 一對
- 一 沉金料紙箱 一色
- 一 同硯箱 一色
- 一 紙子 二拾本
- 一 太平布 五十七
- 一 後給子 五拾袋
- 一 泡盛酒 五壺

清墨極中山室建月分

- 一 所カモシ 五掛 但沉金箱
 - 一 玉ノ硯箱 一對
 - 一 青貝卓 一對
 - 一 沉金粉飯 二
 - 一 編緬 五十卷 木紅
木丸
 - 一 芭蕉布 五十疋
 - 一 泡盛酒 三壺
- 右和洋薩摩寺ヨリ使者ヲ以被指上候由
公方極ヨリ中山室
- 一 白銀 五百枚

一綿 五百把

一金繡 二十卷

八方孤弓中山主純月分

一白銀 五百枚

一羽二重 百疋

一八丈嶋 五拾疋

中山五口重而紋下

一大紋羽二重 百疋

一綸子漆物 百疋

兩使、

白銀二百枚 時服十

兩使之從者八

白銀二百枚

一土月立日於沙城音樂被仰分所謂

太平調樂 桃花源樂

不老仙樂 楊香明樂

壽尊翁清曲

合五聲

樂器之名

賀納 橫笛 同 鼓 小銅鑼

銅鑼 兩鞞 三金 三板

一十二月四日 清之家物、西使系上、身進物

清代珍身中山王ヨリ

- 一 官香 十把
- 一 練芭蕉布 廿端
- 一 嶋芭蕉布 廿端
- 一 紬綾 十端
- 一 籠飯 一封
- 一 泡盤集 二壺
- 一 壽帶香 五箱
- 一 中央阜 一面

中山王總目身

- 一 練芭蕉布 廿端
- 一 燒耐池 二壺

養里王子ヨリ

- 一 官香 十把
- 一 大平布 十七
- 一 練芭蕉布 十端

豐見城王子ヨリ

- 一 开心香 三把
- 一 唐布 拾端

以上

右系上、人数

中御下り此方
ふのやうなるを友にたむなりはつて衆人共はるもたむ

来翰

謹裁尺楮呈上閣下恭聞
貴國

大君新紹

國統四海昇平萬祥畢臻
如吾小邦亦不效華封之
祝乎今茲特遣小臣兼重事
捧不腆之方物從我薩摩

女將吉貴謹奉

申

賀儀伏冀諸大老採納焉

尚達

台聽曷任悚踴之至誠惶不宣

中堂

寶永七年度寅五月二日 尚益

謹上

土屋相模守殿

小室原依波守殿

秋元但馬守殿

本多伯春守殿
大久保加賀守殿
井上河内守殿

敬修又素奉表微志去歲

薩摩太守以將吉貴遵依

鈞命之旨許寡夫嗣先人之業

敬國無異歎竹何極茲欲

拜謝

洪恩從於吉貴遣小臣豐見坂守子

獻上輜藝之土宜伏冀以

諸大老指教尚達

台聽不勝感激之至誠惶不備

中堂

寶永七年庚寅五月二日 南益

謹上

御老中六人

返翰

大使義星王子來接琅函就審

這聞

御代始即獻方物以進賀特有

仰首禮待踰常儀誠是

賢藩之榮幸也

賜物如目錄附歸使訖事具可在

薩摩中將報知候誠恐不備

井上河内守

寶永七年庚寅上月廿二日 源美季

木久保加賀守

藤原忠增

木多伯耆守

藤原正水

秋元但馬守

藤原房和

土屋相摸守

源政直

奉復 中山王閣下

信音累至仍承為告

賢藩承襲事特差使者量見城

王子獻方物以進謝誠意遠著

褒將愈加幸甚之至候

賜物如別錄附使者還餘悉薩摩

中將可有報聞者也誠恐不備

寶永七年庚寅上月廿二日 御老中五人

奉復 中山王閣下

庚寅之冬琉球國野良里之子從王子而來在干江府
薩摩侯羽林吉貴之弟薩摩侯受
官命與野良里圍碁野良里着之碁子對國手本岡坊予在
傍觀之且以定其手品蓋因中山王之請也予許之以對
國手着之碁子予觀其下子資稟不庸工夫有素積
以歲月而真積力久則其進也豈可量哉惜乎相遇
日淺離別期迫而教誨之不數矣雖然碁之為方原於
陰陽變化之理治國治人之方盡存於此其要在方寸
之間而已歸帆之後勉焉不怠專心致志則雖隔千里
猶咫尺斯道在己豈求外哉

寶永七年庚寅秋冬之日

日本國大國手井上因碩

呈示

琉球國野良里之子

寶永七年庚寅年

三月朔日於松平薩摩守處

中押勝

本岡坊

三ツ

野良里之子

中押勝

井家周長

カウ

仲原薩摩親雲上

先妻翁二頁

先二二頁

二番翁

定先二番翁一妻翁

坪田玩頌

仲原翁全親書上

相原可頌

薩守長之弟
加喜

井上周頌

井上周頌

松平氏之孫

松平利頌

中田末吉之弟

中田友頌

松平末吉之弟

井家周長

松平治房之弟

相原可頌

十一歲

松平末吉之弟

坪田玩頌

十一歲

右琉球人十月十日江戸着府江戸発足者十月十八日也

詩

遊來武城

富盛親方

行々々々亦行々日夜行々到武城上国風光看愈好不才
豈敢默詩情

是の海山を命之旅の宿いそくをなす
やういふかゝるもよきほひをよ

海子春

見ゆる海の岸は波のたぎるも春と白く春は初風

雅章

初春

吹くてのこふきうねき雲は浦やはよむの春は初風

北水虎

折あいに春はみくも春柳のうらまひとやとふあむん

通是

水戸春のうらまひとやとふあむん

信専

初春旅

うらまひとやとふあむん

幸仁

初春初旅

まちをさるるはなれはの春はや旅の秋はくさるるはなれ

初春氷

あふれんもあふれんも春は初風

初春見落

こころは地のこころは初風

初春見落

あふれんもあふれんも春は初風

初春

あふれんもあふれんも春は初風

初春

あふれんもあふれんも春は初風

初春初旅

あふれんもあふれんも春は初風

松樹庵

山を以て居るを松樹庵と云ふも松樹庵と云ふも松樹庵と云ふも松樹庵

周法庵

言の片ふきしやも松樹庵と云ふも松樹庵と云ふも松樹庵

悔色庵

松樹庵の松樹庵の松樹庵の松樹庵の松樹庵の松樹庵

松樹庵

言の片ふきしやも松樹庵と云ふも松樹庵と云ふも松樹庵

松樹庵

松樹庵の松樹庵の松樹庵の松樹庵の松樹庵の松樹庵

松樹庵

松樹庵の松樹庵の松樹庵の松樹庵の松樹庵の松樹庵

松樹庵

松樹庵の松樹庵の松樹庵の松樹庵の松樹庵の松樹庵

松樹庵

松樹庵の松樹庵の松樹庵の松樹庵の松樹庵の松樹庵

松樹庵

松樹庵の松樹庵の松樹庵の松樹庵の松樹庵の松樹庵

松樹庵

松樹庵の松樹庵の松樹庵の松樹庵の松樹庵の松樹庵

松樹庵

松樹庵の松樹庵の松樹庵の松樹庵の松樹庵の松樹庵

五月柳と知

りくもいふ 雲々の柳まのまに 海舟をうたへ 色もあはれ仙洞
くちあむ 凡のまにこころをうたへ 柳のまに 色もあはれ仙洞

五月柳と水

氷と池の流るる 柳の肩と草とをうたへ 色もあはれ仙洞

春月

こころのまに物とらふ 柳のまに 色もあはれ仙洞 通村

五月月

又それやまに 水と柳のまに 色もあはれ仙洞 通村

五月月

柳のまに 色もあはれ仙洞 通村

五月月

花と雲のまに 色もあはれ仙洞 通村

柳のまに 色もあはれ仙洞 通村

五月月

花と雲のまに 色もあはれ仙洞 通村

柳のまに 色もあはれ仙洞 通村

春暁

柳のまに 色もあはれ仙洞 通村

春雨

まに 色もあはれ仙洞 通村

五月月

あまのうららとてと甲半の雲もく花もぬま風もく 氏信

初花

うつしとととととのふ入すはるあまの初をくくま 後鳥花

又花

白れを散てきる雲の日は走とのこもとるれをく 季信

花風

あまのうららとてと花もぬま風もく 通村

名取花

白くは花とととと初花もくくくく風の日を 重隆

山家花

あまのうららとてと花もぬま風もく 後鳥花

田家花

同じくや山田の春は花もぬま風もく 通教

河花

花もぬま風もくくくく風もくくくく 基源

あまのうららとてと花もぬま風もく 季信

滝花

あまのうららとてと花もぬま風もく 意光

惜花

あまのうららとてと花もぬま風もく 光慶

落花

あまのうららとてと花もぬま風もく 仙洞

落花似雪

あけこと花の神よりして之清くは花の白き 實業

帰馬

之ついでや方をくやよ入鹿よさめまればる子 道見

暮春

花いなる福かつして山の嶺を流るに如くも 實業
い此河をのちるこけりもよ海ぬ流よまいれも 實業

寒氣甚

今夜の風乃むし竹葉をささちりよ志の清き 通夜

夏草

之木をまるとも虫もきりてよ木葉のまれば色よ 實業

そとまき

をさかたけらされてまきれまよのまいて山の清き 通夜
まきよいぬけらと清くつよまき天のまきれまき 實業

樹陰夏月

木をまき夕の影にまきれまよのまいて山の清き 日

秋夜月

夕清くいりるまき果れけりは清き月をのち 通夜
明くも思えんはのまきよいしむ清き月をのち 通夜

南其月

北のめを清きまきまきと此浦の清き月よ 通夜

白其月

そく雲の光と清し秋しくあけの草は青く月 通夜

友山

くさく花とゆくとこれの山も雲に色を清き 狂見

其野

あふしきもちうき之邦と秋といふ声 通村

其南物

おそく只一声のけさあふく秋は雲のこころに 隆慶

文灯

宵に半の光あつたに秋をきねとけさきり大 通夜

其糸

周ちく秋の声ゆきまうとまはるくはしあを鏡き 仙回

文船

やきくし秋も清き花と草もあつた甲入る 弘賢

秋涼

秋涼凡と思ねまうとく友にちや水のしは日

早秋

まつらるる秋の心むら秋もあつた秋凡 狂見

初秋期

秋らるる秋の凡と秋あつた秋の心世一秋子に 狂見

秋

あつらるる秋の心花もあつた秋の心世一秋子に 狂見

秋若林

つじき花の枝乃花んよのよいさる花のまゆ那 弘資

花ん

吹くぬきんの花をさくくの袖よんか花のよん 基光

月夜舞

一しのまといく花の月夜舞の枝ととりや 後光

花ん

花のまといふ花のよんついでおまよふふ花のまゆ日

花ん

吹とく花のよんついでさくくの声よん花のまゆととりや 基光

月夜虫

月夜をさくまゆととりや花のまゆととりや 花のまゆの声 西村

月

つく星のよんついでさくくの枝にさひれまゆととりや 弘資

心ある花の月のまゆととりや花のまゆととりや 弘資

十五夜

さくくのよんついでさくくの月のまゆととりや花のまゆととりや 弘資

月をさくついでさくくの枝にさひれまゆととりや 弘資

花ん

さくくのよんついでさくくの月のまゆととりや花のまゆととりや 弘資

山月

山のまゆととりや花のまゆととりや花のまゆととりや 西村

花ん

ひよー世やまのそふにんて切ておろ下にける月就 後出流

中於月

あふりしはともんはまて後身しおる世に月就 後身

橋上月

白雲の抱ふふけき月就お見をける世のふけ指 西歌

浦月

善如見の仲のな舟こまのこまの浦へ月やさる人 後出流

雲石月

とせぬ人そふもこまの中やよやととれぬ世の朝日

秋時女

うき世の海。このころこいふ世とくは秋時女うしし 基福

秋雲

いやはよの秋やうよ秋のそれ若のむらう人うき今上

橋衣

うらとれず人うらまやんてて石のあつしをせぬ 後出流

草如雲

雲とせそあそせのたもを傍をねようもる昔のおき 光平

善如海

折つる尾花。この虫のまもかむしぬる世のまも 賢彦

善如海

志しつるしはあきほようあつくとねれあつとせん 光平

暮秋露

り如とまゝとあつとすのくはるむ種あふしゆまを

九月五

ふれりりあふ種をふれりりあふ種をふれりりあふ種を

種を

牡丹のまゝとあつとすのくはるむ種あふしゆまを

天地候

牡丹のまゝとあつとすのくはるむ種あふしゆまを

牡丹

牡丹のまゝとあつとすのくはるむ種あふしゆまを

牡丹のまゝとあつとすのくはるむ種あふしゆまを

千鳥

牡丹のまゝとあつとすのくはるむ種あふしゆまを

牡丹千鳥

牡丹のまゝとあつとすのくはるむ種あふしゆまを

牡丹

牡丹のまゝとあつとすのくはるむ種あふしゆまを

牡丹

牡丹のまゝとあつとすのくはるむ種あふしゆまを

牡丹

牡丹のまゝとあつとすのくはるむ種あふしゆまを

牡丹

牡丹のまゝとあつとすのくはるむ種あふしゆまを

牡丹

さきととささくし曉のきくひはあはれふらふとま 光雄

又恋

このまはる月を夜色こねくと泣き言のあはれはく 宗隆

寄旅意

るやまへの心乃如し秋意とささきつゆれこもとも 隆光

寄夕雲

おとくあひふよともまの糸この又を秋霞のささし 日

山中歌

白尾を指しあはれねもささきまき山の所つ男 日

因筑

あさくおほくすいさつささきくささきともささき世中 日

山家障

あまねれい花ささきささきとれはあはれささき山はるる 豊長

山家水

ささきりあさきささきささきささきささきささき 弘賢

ささきの水ささきささき山はるるささきささきささき 有徳

新ね

ささきとささきささきささきささきささきささき 通茂

ささきささきささきささきささきささきささき 光雄

竹乃友

浪うてあさきささきささきささきささきささき 通茂

野茶

おぼろぎの山に 月もやみしるを 通村

閑語

おぼろぎの山に 初めゆきゆく 声もきく 海芝

曉見使船

おぼろぎの山に 曉の月より 季節の鳥 季唄

旅

おぼろぎの山に 隔るぬき 旅の心も 意光

秋旅

旅衣袖を 白く花は 秋の心も 雅美

霧中送日

おぼろぎの山に 霧の中 送る日 通茂

去月旅

おぼろぎの山に 去月の 旅の心も 日

旅者

おぼろぎの山に 旅者の 心も 旅者

旅夜

おぼろぎの山に 旅夜の 心も 日

旅雨

おぼろぎの山に 旅雨の 心も 葉

祝云

おぼろぎの山に 祝云の 心も 葉

去月祝

十石	十石	十石	百石	六百拾石	十普五拾石
正壽院	神護院	雲蓋院	長樂寺	龍山寺	志賀院
十石	十石	十石	十石	百石	五百五拾石
仙岳寺	利光院	吉祥院	龍山寺	龍花院	鳳來寺

河内坂本
二列
五列世良田
紀之祖山
加茂金山
備引福岡
常引水
尾初名吉屋
連引
奥列仙臺

歸國油紙抄札供忘於所城下物在分
 紀伊大納言殿 紀伊中納言殿 水戸宰相殿 尾張宰相殿

市新丸 松平朝貞寺 日 松平隆興寺

日 松平隆慶寺 日 松平裕河寺
 日 松平如雲寺 日 松平右京寺
 日 松平隆俊寺 日 松平肥後寺
 松平和泉寺 細川越中寺

市新丸 日 松平内花院 日 松平益次郎
 他山右京寺 日 松平後藤寺
 松平書齋寺 市新丸 上松彈正右衛門
 松平如雲寺 松平洪河寺
 松平肥前寺 毛利甲斐寺
 松平大膳寺 松平信雄寺

市新丸 日 松平隆慶寺 日 松平裕河寺
 日 松平如雲寺 日 松平右京寺
 日 松平隆俊寺 日 松平肥後寺
 松平和泉寺 細川越中寺

有馬中務左輔

松平右近門督

松平右近守

松平大膳左輔

丹波右近守

松平信理守

松平信春守

伊達大膳守

宗新島守

伊達左衛門守

丹波右近守

之花丸原守

丹波右近守

松平左衛門守

所著

保志自方印礼卜上分

松平加賀守

松平隆興守

松平隆房守

松平隆吉守

上校隆吉守

松平隆吉守

松平隆吉守

松平隆吉守

清内書相後次牙

藤田守

紀伊大納言殿

紀伊中納言殿

尾張守相殿

柳守

松平昌興守

松平隆房守

松平隆吉守

松平隆吉守

細川越中守

歲暮中

歲暮中

甲府中納言殿

水戸守相殿

水戸守相殿

松平隆興守

松平隆吉守

松平隆吉守

松平隆吉守

松平隆吉守

松平中納言

伊達守

松平守

松平公家補 筆名

松平之辰辰

松平横麿

松平忠隆 書名

松平初邦 書名

松平肥前 書名

松平大膳 書名

有馬中務 書名

侍進 書名

松平古伝 書名

西本願寺

松平内親

松平忠房 書名

松平俊成 書名

上松彈室 書名

松平清隆 書名

松平大守 書名

松平信隆 書名

宗親馬 書名

松平古馬 書名

厚間

一言家流 一 流流

芙蓉間

一 片巻之番 一 寺社奉行 一 大坂御殿 一 伏見奉行

一 後河原代 一 山崎居流 一 大目付 一 町奉行

一 山崎定守 一 山崎守守 一 山崎清守 一 山崎守守

一 京都町守 一 大坂町守 一 後府守 一 幕表附

一 山田守 一 日走守 一 寺島守 一 後府所守

菊間

一 流流 一 流流嫡子 一 大目付 一 山崎院書

一 山中神保 一 山崎守 一 百人組 一 山崎守

一山抄子取 一山抄子取 一火清波 一山修養
一山抄子取 一山抄子取

中間

一西丸山五古居 一新善法 一山五古居 一山月分
一山抄子取 一山抄子取

片連歌、同中、編類

一山白書院、獨祀、製作

栴檀、同

一新善法 一新善法

御璽、同

一山抄子取 一山抄子取 一山抄子取 一山抄子取

一山抄子取 一山抄子取 一山抄子取 一山抄子取

一山抄子取 一山抄子取 一山抄子取 一山抄子取

一山抄子取 一山抄子取 一山抄子取 一山抄子取

焼火、同

一山抄子取 一山抄子取 一山抄子取 一山抄子取

一山抄子取 一山抄子取 一山抄子取 一山抄子取

一山抄子取 一山抄子取 一山抄子取 一山抄子取

一山抄子取 一山抄子取 一山抄子取 一山抄子取

一山抄子取 一山抄子取 一山抄子取 一山抄子取

一山抄子取 一山抄子取 一山抄子取 一山抄子取

一山抄子取 一山抄子取 一山抄子取 一山抄子取

- 一 係子方
- 一 以初定方
- 一 以代友
- 一 以代友
- 一 以切年ノ取没
- 一 以花子方
- 一 以庭方
- 一 以庭方
- 一 以公最
- 一 中以上役
- 一 一馬勢

壹万石以上嫡子也ノ所目是獻上物ノ竟 嫡子同封

- 一 三万石ノ四万石ノ者
- 一 五万石ノ九万石ノ者
- 一 拾万石ノ十九万石ノ者

- 嫡子 浪馬代時後ニ
- 二男 浪馬代時後ニ
- 嫡子 浪馬代時後ニ
- 二男 浪馬代時後ニ
- 嫡子 浪馬代時後ニ
- 二男 浪馬代時後ニ

- 一 拾万石ノ四拾万石ノ者
- 一 五拾万石ノ上

總目是決敬上物

- 金馬代時後十
- 金馬代時後十

- 一 五百石ノ九百石ノ者
- 一 千石ノ一萬石ノ者
- 一 二萬石ノ四萬石ノ者
- 一 六萬石ノ九萬石ノ者
- 一 法中法取時後子大
- 一 法中法取時後子大
- 一 法中法取時後子大

- 浪馬代
- 金馬代
- 金馬代
- 金馬代
- 一朱一苞
- 一朱一苞
- 一朱一苞

初九 序門 美人 粉 粉

是

一畫

去人

一竹

六人

一洗

三人

一弓

十法

小抄之三

一洗

古推

一七

古本

古一也 一也 古也

是

三月

大序門 美人

是

一畫

去人

一竹

六人

一洗

三人

一弓

十法

小抄之三

一洗

十五推

一七

十本

古一也 一也 古也

是

三月

大序門 美人

是

一竹

六人

一洗

六人

一弓

古法

一洗

十推

一洗

十本

大入道之右御

主二月

和国食心之毒中
和国食心之毒中
和国食心之毒中
和国食心之毒中
和国食心之毒中

是

一竹
一弓
一池

一尺
一池
十

一尺
一池

十
一尺

大入道之右御

主二月

馬場之毒中

日比谷之毒中
甘原之毒中
田舎之毒中
竹橋之毒中
一橋之毒中
是橋之毒中
波治橋之毒中
新野橋之毒中
平橋之毒中
富達橋之毒中

一毒

是

一人

一竹

一人

下馬上下家橋迄行列人抄之竟

一四品及指方石以上手取物婦子の六人系履九人按指物人
六人四人五一人言中望物人

一五品以上約式人三人五口人意方限付物志心より取進は系履九
人按指物人六人四人五一人言中望物人

下家橋下川口古遊人取定

一四品及指方石以上手取物婦子の三人

一五品以上婦子九約式人 切方中より取進は系履九人按指物人
九人按指物人但按指物中より取進は系履九人按指物人

並物之人

一法書取法物取布衣心より取進は系履九人按指物人 中國の子世流心より取進は

系履九人按指物人

一三品以上下し系履九人按指物人 中國の子世流心より取進は系履九人按指物人

一系履九人按指物人

一五品以上下し系履九人按指物人 中國の子世流心より取進は系履九人按指物人

一法書取法物取布衣心より取進は系履九人按指物人

此の流心より取進は系履九人按指物人

一江戸中世還し系履九人按指物人 中國の子世流心より取進は系履九人按指物人

一系履九人按指物人

一江戸中世還し系履九人按指物人

一系履九人按指物人

一江戸中世還し系履九人按指物人

相模 武藏 書房 上流 下流 其陸

東山乃八ヶ所

名曰 玉花 玉原 竹花 上流 下流 陸奥 切也

小陸道七ヶ所

美枝 越前 切也 陸奥 越中 越後 陸奥

山陰乃八ヶ所之内二ヶ所

丹波 丹波 但馬

都立二ヶ所之内

去二ヶ所之内 可用 守隨 長壽 祥之 為也 作也 通海也

之 故 石 之 邊 有 其 於 用 引 人 之 祥 之 迷 可 以 交 教 科 也

之 祥 十 二 年 十 月 相 模 下

山城 下

丹波 下

加賀 下

上包 祥 此 文 守 隨 夫 古 師

是

五畿内五ヶ所

山城 大和 河内 和泉 摂津

山陰道八ヶ所之内五ヶ所

周後 伯耆 出雲 石見 陸奥

山陽乃八ヶ所

播磨 美作 備前 備中 備后 出雲 周後 美

修

一高人之事湯翁之政所因之了其一音為人月

水產

一修之向の

名之所例し即中如私人車七法持之

之修五申年十月日

之初二酉辰
四月十七日
寛永九之申
正月十四日
正保四丁亥
八月四日
若布之辰寅
五月七日

権現権
台徳院権
月溪院権
源敬候
寛永二酉寅
九月十五日
日十亥酉
三月六日
各若慶安元巳丑
七月四日
日四辛卯
四月六日

景源院殿
峯叢院殿
鈴木院殿
大猷院権

承應元之辰
正月二日
寛文元之辛巳
七月十九日
同丁辛亥
正月十日
延宝二甲寅
六月八日
日六戊午
六月十五日
日八辰申
五月八日
元禄工戊寅
七月七日
日三乙卯
六月五日
同丁乙
三月六日

宝樹院殿
源威卿
南龍院殿
本理院殿
東福院殿
叢石院殿
知法院殿
春心院殿
源義
同丁乙酉
九月十五日
寛文二酉寅
二月六日
日三壬子
二月五日
延宝四酉辰
八月五日
同辛卯
九月十四日
天和二癸亥
五月八日
同辛卯
三月十日
日三乙辰
十月十六日

法華院殿
天樹院殿
天崇院殿
之叢院殿
法揚院殿
淨徳院殿
聖仙院殿
瑞穂院殿

このわづらひを憐愍のこころに—ある不忠ある者しとて
いずるまじき也

一 萬物にても花よりよはる花は飲食をよむと儉約と
可相さす

一 以馬をとりてりて或は御と申掛を利欲とて人々の害と
すべし—すも或は御業と初るべし

一 盜賊を忍ぶるのこころは所人少く—色を所獲は可
なり

附情妻等令制禁し

一 淫婦口濁し侍りし日あるは其位根不可相向又
いふべし—

一 水引花冠を後在し初る侍等ふかき池集り

一 人を賞賜し侍りし年をよむに下へ男女丸小拾ケルを
限ゆ—

附清代へあふ又いふ所は後事書化わら初る侍書子
ともく不承しと押さるるのとて呼返す

去條に可相守し故を遷祀し事ころは處教神を不承
作也仍下知如件

天和二年五月日 奉行

修

一 毒茶茶は甘茶控管買し候所令制禁し—ある御買
仕て—は所罷科し—は日新し—は所人少く—

鳥居氏宗家より下す

一 此世に宗家より一切の御事より長し日にお約束ありていざ
なすべくしはしりし事にしていざなすべしとの旨にせし
宗家の宗家よりしりし事にしていざなすべしとの旨にせし

附し世に宗家より下す

一 寛永の御事よりいざなすべしとの旨にせし
宗家の宗家よりしりし事にしていざなすべしとの旨にせし

一 新法に依りし御事よりいざなすべしとの旨にせし
宗家の宗家よりしりし事にしていざなすべしとの旨にせし

附し世に宗家より下す

一 新法に依りし御事よりいざなすべしとの旨にせし
宗家の宗家よりしりし事にしていざなすべしとの旨にせし

一 法式の御事よりいざなすべしとの旨にせし
宗家の宗家よりしりし事にしていざなすべしとの旨にせし

一 法式人よりいざなすべしとの旨にせし
宗家の宗家よりしりし事にしていざなすべしとの旨にせし

右に修し可相し世に宗家よりいざなすべしとの旨にせし
宗家の宗家よりしりし事にしていざなすべしとの旨にせし

天和二年六月日 奉行

定

宗家の宗家よりしりし事にしていざなすべしとの旨にせし
宗家の宗家よりしりし事にしていざなすべしとの旨にせし

一 此の通り
一 此の通り
一 此の通り

此の通り

[Faint handwritten text, possibly bleed-through or a separate note]

一 此の通り
一 此の通り
一 此の通り

一 此の通り
一 此の通り
一 此の通り

右の通り

天和二年六月日 奉

修

一 此の通り

いづれの所人 張二百枚

之よりとの所人 同形

曰名其まの所人 張百枚

考し也可下したとい日夜多し一白しとよと所人
おちるおふしと張六百枚可なりしと一と此の所
しといといてしと所のを并たにと一類たしとを
教新也仍るなり件

天和二年六月日 奉行

定

一 大申合切申渡人 并大伴し事し事し此系は渡人 並あし
るしとる者あり

一 大申場くし 并取所をそよと進よあしていし法を
しをて初通をくしとてし行しとら 搦捕し一と及長候と
る所候申

一 大申場と申し法進の申しと合張法式いふとと町奉行
不也持多しと名わしと編しと行しといといてい可候行
形神たとい日れしと子とと所人 并あし事し其神と
内渡更しといしと
右條しとあきけとと也仍る知なり件

天和二年六月日 奉行

候

一 大申場と申し法進の申しと合張法式いふとと町奉行
不也持多しと名わしと編しと行しといといてい可候行
形神たとい日れしと子とと所人 并あし事し其神と
内渡更しといしと
右條しとあきけとと也仍る知なり件

一宝永八年卯正月九日寅上刻

若子孫御誕生

御母九条左有輔實公御世

行苑

成園集正正輝

曼目

竹腰山城守正武

同矢取

渡辺九右衛門

一今日為 上使若年寄加藤越中守明英出

一同土日間宮酒之元之和石重三郎左門重純西人

若子孫御傳 所附屬被 仰付

一同十五日今日所七夜 若子孫御名五郎太君卜奉祿

一為 上使所老中秋元但馬守喬知ヲ以品々被進之但馬守放

所刀延壽

代金十枚

被遣之

從 公方様 殿様

呉服 二十 銀二百枚 三種二荷

從 所同人様 姫君様

綿 百把 銀百枚 三種一荷

御同人様 五郎太様

御守脇差 相外行先 代金百枚 白銀百枚 三種二荷

右之通 所辨領之

一同日於表所座之間 殿様 五郎太様 所對顔從

五郎太様 所太刀馬代 所少袖 十所進上 所同席從

姫君様 長野之守衛 所使 于黃金十枚 三種二荷 被進之

一從 殿様 五郎太様 所刀 長先 代金百枚 所脇差 國清 代金百枚 被進

右所使 奥由主馬

一同十八日 今日右為所礼 殿様 所登城

御目見 所登中 被進之

一今日 所献上物有之如左

公方様 殿様

所少袖 二十 三種二荷

御基様

紗綾 三十卷 三種一荷

竹姫君様

紗綾 二十卷 三種一荷

右所使

成願集正

公方様口

平即木様口

清少袖 二十

三種 二荷

御臺様口

縮緬 二十卷

二種 一荷

竹姫君様口

白銀 二十枚

二種 一荷

右出使

間宮造爾光

一册七夜、所祝儀被進物

從 清臺様 殿様口

紗綾 三十卷 二種 一荷

從 養父院様

紗綾 二十卷 二種 一荷

從 松姫君様

右所同新

從 竹姫君様

所肴一種 所持一荷

從 本壽院様

縮緬 二十卷 十足 二種 一荷

從 水戸様

所太刀馬代 時服 五 三種 一荷

松平安藝守殿

沖太刀馬代

縮緬

三葉

二種一荷

提列極重列極ヨリ

二種一荷完

右近情盛極日向身極但馬手極ヨリ

二種完

從是以下 五節太極口之分

從 沖基極

沖產衣 二十 西種一荷

從 養他泥極

沖產衣 五重 二種一荷

從 松姬君極

沖產衣 五重 二種一荷

從 竹姬君極

二種一荷

從 本壽院極

沖產衣 五重 二種 千足

從 水戸極

沖脇指一腰 信圓 代金拾枚 沖產衣 三重 二種一荷

從 提列極

沖脇差一腰 濱 代金拾枚 沖產衣 三重 二種一荷

從 出雲守極

沖腸差一腰

備前國倫光
代金五枚

沖産衣

三重

二種一荷

右近將監杯日向守極ヨリ

沖産衣 二重 一種一荷

八上郎秋ヨリ

沖産衣 二重 一種

但馬守秋ヨリ

沖腸差一腰

兼光重
代金三枚

沖産衣

二重

一種一荷

松平安親秋ヨリ

沖刀一腰

備前國重長
代金七枚

沖腸差一腰

兼國真
代七枚

沖産衣

三重

二種一荷

浪野土佐守秋ヨリ

沖十服差一腰

丸國強
代金五枚

沖太刀銀馬代

二種一荷

松平春俊秋ヨリ

沖産衣

二重

十足

二種一荷

織田山城守秋ヨリ

沖守服差一腰

長谷部國信
代金五枚

沖産衣

二重

千鯛

五百疋

加賀守秋ヨリ

沖産衣

三重

二種

十足

水 季君秋ヨリ

沖産衣

二重

二種一荷

沖老中方ヨリ

白銀

十枚

西種充

若年寄衆ヨリ
白銀 二枚 一種元

姫君様ヨリ

所産衣 五重 アカツ 所大 所樽肴

紀列様ヨリ

所脇差一腰 代 所産衣 二重

九條様ヨリ

所大刀馬込 所小脇差一腰 代 所産衣 二重 二種一荷

岸之進様ヨリ

所産衣 二重 一種元

献上

所十脇差 備前國重忠 所産衣 二重

在江戸

成瀬集之正

同新 同銘 所産衣 二重

竹腰山城守

同新 清江次右 所産衣 二重

鈴木伊後守

同新 延壽園時 所産衣 二重

中条主水

同新 備前助次 所産衣 二重

奥田主馬

同新 長吉部圓重 所産衣 二重

津田兵部

同新 備前末重 所産衣 二重

長野之兵衛

在尾列

所十脇差 三原正康 所産衣 二重

渡辺飛騨守

同新 長吉部圓重 所産衣 二重

大道寺駿河守

同新 備前圓重 所産衣 二重

織田周防守

同新
同新
同新
同新
同新

長壽殿借
代五夜
備前國元重
備前國守耶
和列則長
備前國成東
代日
代日
清產衣
清產衣
清產衣
清產衣
清產衣

石川兵庫
阿部總殿
石川親貞
志水右馬
成瀬修理
渡辺新衣角

宝永七寅年寅東下向於聖廟
肅々廟廷格至誠
一時豈料癸斯奉

德光鎮五日并明
爾武特知文教成
五條侍從為範

宝永八辛卯元旦

大學頭林信篤

昌黎畫落杜陵龔
雲深朱衣花笑我

和氣扶人不解蒙
皤々六十八衰翁

同

林信光

仁恩和氣物皆新
剛卯表春官佩玉
同

造化無私天地真
我邦禮樂漢君臣

林信智

五夜春回報漏聲
碧霞仙藥吾何敢

隨行逐隊侍金城
有箇丹心一寸誠

室永八辛卯正月十日 河城所連飲し所會

八百日所信和表代有縁

昌儀

去う治るふそのの所凡

内土長殿

去年とく山網氷玉の毎夜

昌純

初つともありるれさく

昌逸

面やとく少世ふらふ治れん

昌尚

もさきねく庭入り涼しき

昌内

蒼くし枝もなとれ者の月

元昌

新雪の山れさくともくもや

昌親

さくともさきし乃さきさく

通章

呼さる御事唐き海つ

昌泰

花柳善の治れし江の村よ

昌民

ほくさみひく風を流り

忠元





